

こどもとしゃかん R5.1月 あかべえ展示コーナー



うさぎ・十二支の本



うさぎの本

タイトル	著者名	出版社	
『うさぎのみみしばり』	浜田 広介 // 作 バーサンスレン・ポロルマー // 絵	鈴木出版	E/ウ
まちの床屋さんにやってきた、山のうさぎ。けれども、はさみの音がするたびに、ふたつのみみがぴくっ、ぴくっ。こまったうさぎは、床屋のおじさんにおねがいをして…。			
『おばけのめをみておとうとうさぎ!』	ヨンナ・ビョルンシェーナ // 作 菱木 晃子 // 訳	クレヨンハウス	E/オ
おとぎのりのおとうとうさぎは、兄弟でいちばんのこわがり。ある日、パパうさぎにたのまれてブルーベリーをつみにいきましたが、きれいなチョウチョを夢中で追いかけて、迷子になってしまいました。			
『月へいったうさぎ』	谷 真介 // 文 赤坂 三好 // 絵	佼成出版社	E/ツ
たおれていた旅人に、森のどうぶつたちはくすりを飲ませ、おいしいものをごちそうしました。けれども、うさぎだけは何も準備することができません。“月にはうさぎが住む”という言い伝えを描いた絵本。			
『どんなにきみがすきだかあててごらん』	サム・マクブラットニィ // ぶん アニタ・ジェラーム // え 小川 仁央 // やく	評論社	E/ド
ちいさなちやいろいろノウサギとおおきなちやいろいろノウサギは、おたがいのことが大好きでした。			
『だんまりうさぎとおしゃべりうさぎ』	安房 直子 // 作 ひがし ちから // 絵	偕成社	F/ア
だんまりうさぎは、はなしをするのが苦手。けれども、自分がそだてたやさいを分けてあげたり、いっしょに食べたりするともちがほしいな、思っていました。			



十二支の本

タイトル	著者名	出版社	
 『十二支えほん』	谷山 彩子 // 作	あすなる書房	382/タ
 『えとえとがっせん』	石黒 亜矢子 // 作	WAVE出版	E/エ
 『十二支のしりとりえほん』	高畠 純 // 作	教育画劇	E/ジ
 『じゅうにしのはなし』 『じゅうにしのはなしのつづき』	スギヤマ カナヨ // 作・絵	ひかりのくに	E/ジ
 『だじゃれ十二支』	中川 ひろたか // 文 藤本 ともひこ // 絵	世界文化社	E/ダ